

# 「マレーシア造林セミナー」について

名 村 二 郎

マレーシア・サバ州は、州森林局 (Forest Department)、サバ基金 (Sabah Foundation)、サバ林業開発公社 (Sabah Forestry Development Authority, 略称 SAFODA) の3者共催による、人工造林に関するセミナーを、本年の7月9日より14日の間、同州において開催した。

サバ州は、現在、我が国への南洋材輸出量でトップを占める地域であるとともに、早成樹による人工造林を急速かつ着実に進展させている地域である。上記3者による人工造林面積は既に4万 ha を超えている。

木材関係の収入が州財政を支えているサバ州では、人工造林事業が技術面でも管理経営面でも極めて重視され、熱帯の人工造林の成果として目ざましいものがある。

今回のセミナーもこのような背景のもとで、サバ州政府はマレーシア連邦政府、サラワク州、FAO 及び日本政府に参加を呼び掛けてきたものである。

わが国へ参加をとくに呼掛けてきた理由は、マレーシアのいわゆるルックイースト政策もさりながら、現状の天然林の輸出先の大半を占める日本が、将来、同州から生産される早成人造林樹種のマーケットとしてもどのように考えたらよいか、極めて関心の強い問題であるからである。

現地の日本領事館からの要請に基づく外務省および林野庁の指示により、筆者が海外林業コンサルタント協会員の立場でこのセミナーに参加し、サバ側から与えられた命題の “Prospects for the Marketing and Utilization of Fast-growing Plantation Timber from a Japanese Viewpoint” について報告を行った。

セミナーでは、コタキナバルおよびサングダカンにおける3日間の報告・質疑とタワウの Sabah Softwood 社の造林地およびクダット方面の SAFODA の造林地へのエクスカーションが行われた。

セミナーは、Session 1 “The Role of Forest Plantation in the Long-term National Timber Production Strategies”, Session 2 “Forest Plantation Establishment and their Economic Considerations”, Session 3 “Private Investment in

---

NAMURA, Jiro: Seminar on Development of Forest Plantations in Malaysia  
海外林業コンサルタント協会

Plantation Forestry”, Session 4 “Present State of Knowledge and Research Priorities” の4分野にわたって行われた。報告されたペーパーは、次のテーマとレポーターであった。

- ① “The role of forest plantation in the long term state timber production strategy” Forest Department, Sabah
- ② “The role of forest plantation in Sarawak” Forest Department, Sarawak
- ③ “The role of forest plantations in the long term national timber production strategies” Forest Department, Peninsular Malaysia
- ④ “A case study of the activities of SAFODA.” UDARBE, M. P., General Manager, SAFODA
- ⑤ “Compensatory plantation in Peninsular Malaysia.” YONG Chai Ting, Acting Director, Forest Dept.
- ⑥ “Economic aspects of plantation establishment in Sabah.”  
B. R. IBBOTSON, Forest Manager, North Borneo Timber.
- ⑦ “Development of rotan plantation in Sabah.”  
P. S. SHIM, Regional Forestry Manager, SAFODA
- ⑧ “Global perspective of private investments in plantation forestry.”  
Roger SEDJO, Director of Forest Economics and Policy Programme, Washington, D. C.
- ⑨ “Fiscal incentives of private investments in plantation forestry”  
Jimmy GLYN, Managing Director, Sabah Softwood.
- ⑩ “Prospects for the marketing and utilization of fast-growing plantation timber from a Japanese viewpoint”  
名村二郎, 海外林業コンサルタント協会 専務理事
- ⑪ “The role of research in forest plantations” Tan Sri Datuk Bem Stephens, Director, Sabah Foundation.
- ⑫ “Forest plantation development in Peninsular Malaysia: Present state of knowledge and research priorities”  
Mohd. Afzal b. Ata Mold., Silviculturist, Forest Research Institute, Kepong.
- ⑬ “Nursery practice, site evaluation and silvicultural management of plantation in Sarawak”  
C. CHAI & J. J. KENDAWANG, Forest Department, Sarawak.
- ⑭ “Present state of knowledge and research priorities in Sabah.”  
Forest Department, Sabah.

セミナーにおける質問は我が国に対するものが多く、その幾つかを紹介すると次のようなものであった。

①日本の人工造林の拡大は目ざましいものがあるが、これによる将来の日本の木材需給事情についての基本的政策はどのようなものか？

②日本では、合板原木をラワンから他樹種へ転換しようとしているが、その転換状況は現状でどの程度か？

③南洋材の FOB 価格は乱高下するが、価格安定策について日本はどのように考えるか？

④日本の国産・輸入別あるいは針葉樹・広葉樹別のチップの単価に差違があるが、これの理由如何？

以上のように、サバ州で盛んに造林している早成樹種の将来のマーケットとくに日本についての強い期待と関心が示された。

## ■ 海外情報

### ● 2つの国際的産地試験

FAO が刊行している Forest Genetic Resources information No. 12 によると、現在次の 2 樹種について産地試験用の種子が提供されている。

*Acacia mangium*: FAO 林業局とオーストラリア CSIRO 林業研究部が産地試験の仲立ちをしている。これまでのところ、43 の研究所が 100 か所以上の試験地を設定している。まだ一部の産地の種子が残っているので、これまで要請していないところで関心のある機関があれば、FAO 林業局森林資源部長に宛てた要請書の写しを添えて、Seed Centre, CSIRO Division of Forest Research, P. O. Box 4008, Canberra A. C. T. 2600, Australia に申込みよう告示されている。なお申込みに当たっては、産地試験を行なう予定地の自然条件（緯・経度、海拔高、気象条件）、これまでに植栽しているか、いつ頃種子を入手したいかなどを書き添えることが必要である。

*Eucalyptus deglupta*: パプアニューギニア政府森林局はFAOの協力を得て、ニューブリテン島の西部、東部 15 カ所の天然林で種子を採取した。FAO 林業局は昨年 9 月 31 日付で関心をもちそうな国にたいして、これらの種子を産地試験のために提供する用意がある旨を連絡している。この場合にも、関心のある国は、FAO 林業局森林資源部長宛ての要請書の写しを添えて Office of Forests, Attention Mr. N. H. S. Howcroft, Forest Research Station, P. O. Box 134, Bulolo, Morobe Province, Papua New Guinea に申込みように告示されており、アカシアの場合と同じような要件を書き添えることが要求されている。（浅川澄彦）

### ● お知らせ

「熱帯林業」旧シリーズのバックナンバーは林業科学技術振興所筑波支所（305 茨城県稲敷郡笠崎町、林業試験場内、電 0298-73-3211 内線 325）で保管しています。ご入用の方は同所にご連絡下さい。残部のあるものは、Nos. 14, 22, 27, 29, 30, 33, 34, 37, 38, 40～72 で、一部 600 円に郵送料を加算した金額でお頒けします。